

学長式辞

光産業創成大学院大学 学長 石井勝弘

2026年4月2日

新入生の皆さん、本日は、ご入学、誠におめでとうございます。光産業創成大学院大学を代表して、皆さんの入学を心より歓迎いたします。また、本学の取り組みを理解し、皆さんを本学に送り出していただいた、関係者の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

さて、本学の建学の精神から話をはじめます。

本学は2005年に開学しました。皆さんは第22期生になります。

本学の建学の精神は、「光を用いて未知未踏の新しい産業を創成しうる人材の育成」であり、大学設置認可申請書には、「シーズとしての新しい光関連の産業技術力と企業経営力との統合・融合、さらには新しい価値を創造する新産業創成を自ら実践することにより、我が国から世界に新しい知の創造を発信し、かつ貢献できる人材を養成せんとするものである。」と書かれています。これは、晝馬輝夫初代理事長の理念に基づくものです。開学以来、本学はこの建学の精神を守り、活動しています。

また、晝馬明理事長は、「光技術を応用する産業は、幅広い産業領域に新たな展開を生み出す「逆ピラミッド」型であり、その応用領域は日々広がっています。本学は、起業や新事業開発による実践を通してその角度を扇のように大きく広げ、産業界全体への貢献を目指す。」と述べられています。さらに、晝馬明理事長は、人材養成の本学独自の方法として、フォトニクスデザインを推し進めています。

フォトニクスデザインは、現在、実践しながら構築している最中であり、定義はまだ確立途上ですが、私が考えるフォトニクスデザインについて説明します。

本学では、起業実践や新事業開発でのニーズの重要性を認識し、バイオデザイン、デザイン思考の考え方を取り入れてきました。デザイン思考、バイオデザインは、技術ではなく「ニーズ」から出発するアプローチです。現場観察やユーザー理解を通じて、表面的な要望ではなく潜在的な課題を見極め、「誰にとって、どのような状況で、なぜ困っているのか」を明確にする。この適切なニーズ定義が、価値ある解決策やイノベーションの出発点となる、という考え方です。新事業を創出し、それを継続していくには、ニーズ、ユーザー、顧客が重要であり、本学において、デザイン思考の考え方は極めて重要です。

イノベーションとは、新しい価値を社会に実装することです。別の言い方をすると、「技術やアイデアを新しく創出する（つまり0から1をつくる）」Invention（発明）と、「その発明を社会に実装し、新しい価値や変革をもたらす（1を100にする）」Implementation（社会実装）です。明確にしたニーズを起点に、光技術、装置、製品、さらには事業計画までを一体として設計・デザインし、社会実装していく。これが皆さんに求められます。

新しい商品やサービスを作ることだけがイノベーションではありません。シュンペーターはイノベーションを、プロダクトイノベーション、プロセスイノベーション、マーケットイノベーション、サプライチェーンイノベーション、オーガニゼーションイノベーションの5つに分類しています。皆さん、それぞれに適したイノベーションを考えてください。

光産業創成大学院大学は、これらの皆さんの活動を支援するために、光技術、経営をはじめ様々な専門の専任教員、特任教授、客員教員がおります。また、起業実践や新事業開発に取り組む多くの同級生、先輩、同窓生もおります。また、経営の基礎やビジネスプラン作成を行う経営系の授業、光技術の基礎と応用を学ぶ技術系の授業、事業実践活動を行うゼミナール、特別研究があります。これら本学の資源を活用し、新事業開発を実践していくのは、皆さん自身です。ニーズの探索から出発し、光技術で新たな価値を創出し、社会実装するビジネスプランをデザインし、事業実践してください。

本学での事業実践に対し、皆さんにお願いがあります。1つは目的を持つことです。目的とは、最終的な新事業のゴール（目指す理想の状態）です。光産業創成大の3年間では、社会実装までたどり着くことは難しいですが、最終的な目的をしっかりと見据えて活動をしてください。もう1つは、目標を持つことです。短期的で具体的、数値化された目標です。光産業創成大の修了時にどのような成果を得たいかを明確にしてください。

ここまで、事業実践の話をしてきましたが、本学は博士後期課程の大学院大学です。博士（光産業創成）または博士（工学）の学位を取得することができます。博士号の取得には、学術的な成果が必要であり、それは事業実践で得られるビジネス的な成果と同じではなく、別の努力も必要となります。しかし、博士号は、皆さんの専門性と課題解決力を社会に示す証であり、修了後のビジネスでも大いに役に立ちます。皆さんには、3年後に事業の成果を得るとともに、学位を取得されることを願っております。

最後に、本学で皆さんに求められるのは、社会のニーズを捉え、自ら未来の光産業を創り出していく姿勢です。ドラッカーの言うように、未来は待つものではなく、創るものです。光産業創成大学院大学は、皆さんの挑戦を全力で支えます。皆さんが未来の光産業を創ることを、心から期待しています。

本日は誠におめでとうございます。